



1_小松地区から見た竹城全景 2_兵の駐屯・防
御設備構築のため削平された郭(くるわ) 3_調
査を行った全員での記念撮影。案内していただ
いた城下松喜さん(下段中央)・小川俊一さん(上段中
央)・岡本知幸さん(上段左)と一緒に

地域の伝承が今、明らかになる…

戦国の幻の山城「竹城」は存在した！

「延川村に竹城と呼ばれる戦国時代の山城があったそうなの…」

このような地域の伝承をもとに取り掛かった今回の調査。

そして、新たな発見—

町教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の確認作業を行っています。

今回、この調査の一環として訪れた延川地区。調査の目的は、延川駄場地区の人々に語り継がれている幻ともいふべき「竹城」の存在を確認することでした。

この竹城に遺構らしきものがあることは、これまでも地元の人々の間で知られており、麓の城山神社にまつわる伝承とともに語り継がれてきました。しかし、それが本当に城の遺構なのか、どの程度の規模なのか、その概要すら掴めていませんでした。

そして1月中旬、その伝承を明らかにすべく延川在住の城下松喜さん・小川俊一さん、郷土史に詳しい葛川熊夫さん・岡本知幸さん(小松)の案内のもと、いよいよこの山に足を踏み入れることになりました。延川駄場地区の集落裏山を登ること約30分、尾根伝いを行う調査員たちを遮るかのよう

に現れたのは、斜面を削った切岸と、その上の「郭(くるわ)」と呼ばれる平坦部。それが山頂に向け段上に連なっている光景に、「まさしく山城の遺構だ」と調査員の誰もがそう確信しました。

本丸である山頂部に到着し、さっそく周囲の遺構を調査。戸祇御前山へ続く稜線には、尾根を掘削し敵の

侵入を防ぐ「堀切」を設け、その先にある郭には投石用と思われる河原石を配備、さらに麓に向け延びる2本の尾根もそれぞれ堀切で遮るといふ堅固な構えであることが判明。そして調査の結果、10か所の郭と5本の堀切を持つ町内でも屈指の規模を持つ山城であることが分かりました。

本城の築城年代は明らかになっていません。しかし、戦国末期の城主は小川左馬進定吉といわれており、永禄13年(1570)延川村に小川左馬進定吉、西川美作守政輔、小松新治郎が本願となり、天満大自在天神宮を建立したことが棟札に記されています。また、その後、竹城は土佐・長曾我部勢の侵攻により落城、小川左馬

進は討死、奥方も逃れる途中で討たれたとも伝えられています。

現在でも、小川左馬進の末裔と伝わる小川俊一さんをはじめ、近所の家々で左馬進ゆかりの城山神社をおまつりしています。

今回の発見は、「しよせんは昔話だから…」と、ややもすれば軽んじられそうな伝承・伝説が、まんざら作り話ではないことを証明した大きな成果だと言えます。今後、いにしえの人々が語り継いできた伝承が「事実」として解き明かされ、地域の歴史が少しずつ明らかに

なっていくことを願ってやみません。

